No.9　横須賀市立武山中学校

学校だより

【学校教育目標】
ゆたかな心を　育てる学校
「学力　文化　コミュニケーション」

令和2年8月 21 日
発行　校長　佐藤昌俊

残暑厳しい中、頑張っています。

８月 18 日(火)から前期後半が始まりました。連日の猛暑の中、教室にはエアコンが入っているとはいえ、異常な暑さと新型コロナウィルス感染防止のための換気でエアコンもなかなか効かない状況です。そこで生徒たちが熱中症にならないよう、授業中の換気は最小限度に留め、なるべくエアコンが効くように換気の仕方を改めました。それでもなかなか・・・・・。天気予報では今週が暑さのピークと言っていますが、そう願うばかりです。そんな中でも生徒は、クラスの仲間とともに一生懸命に学習に取り組んでいます。生徒の頑張りに勇気づけられます。

「主体的で対話的な深い学び」を目指して

右の写真は社会の授業の中の一コマです。全員が黒板の方を向いて先生の話を聞くという一斉型の授業ではなく、少ない人数の学習集団(４人グループ)を作って学んでいるところです。令和３年度から全面的に実施となる新しい学習指導要領では、それぞれの教科で求められる資質・能力を育成するために、あるべき授業の姿として「主体的で対話的な深い学び」が重視されています。この４人グループによる活動は、この深い学びを実現するための一つ手段です。もちろん一斉型の授業により、身に付けなければならない知識等を習得する授業も必要です。しかしそれだけでは思考力・判断力・表現力等を育成することは難しいとされています。

生徒が主体的に学ぶには、その学習内容や教材に興味・関心をもったり、学ぶことに必然性を感じたり、自らの経験等に照らして問題意識をもったりすることが大切です。また、学習の過程において、生徒同士が話し合ったり、一人ひとりが自分の思いや考えと向き合ったり、教材そのものと関わったり(じっくり観察・分析)するなど、対話的な学習が生徒の思考を促します。このような学習の過程の中で、身に付けた知識を関連付けたり、様々な情報を整理して自らの考えを創造したり、見出した問題を解決したりするなどの深い学びが実現するのだと思います。

この授業では関東大震災時の状況を資料から読み取り、災害の大きさやその原因を分析しながら、「デマ」という情報伝達の問題が浮き彫りになりました。直近では熊本地震のときに起こった SNS 上のデマも取り上げられ、生徒は自分の身の回りにも起こり得る問題としてとらえ始めました。そして情報をどう扱うべきか、今日のねらいにつながる話し合いが行われました。(総合的な学習の時間「防災」とも関連した学習となっています。)

新型コロナウィルス感染症の関係で、学習活動にも制限がかけられていますが、「主体的で対話的な深い学び」を実現できるよう、工夫を凝らしながら、生徒とともに楽しく、わかる授業を創っていきたいと思います。